

やまおり

たにおり

やまおり

たにおり



特徴
頭の上が平う。
ふくよか。

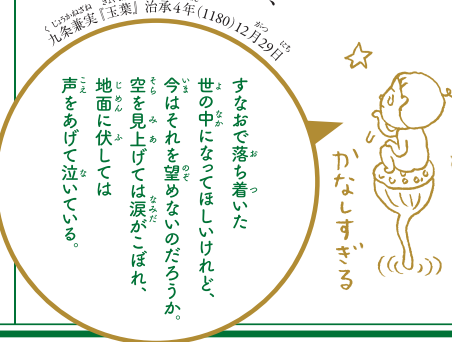
ほうねん
法然

【ほかの名前】勢至丸、源空など
【出身地】美作国(いまの岡山県)
【誕生日】1133年4月7日
【お父さんの職業】武士
【家族】生涯独身
【亡くなった日と場所】1212年1月25日、京都東山で。80歳でした。
【法然が開いた宗派の名前】浄土宗
【勉強】16歳から3年かけて、お経60巻を読破しました。
【尊敬する人】善導(中国の唐時代のお坊さん)
【感動した本(お経以外)】善導の『観無量寿経疏』。
【最高の夢】善導が会いに来て、「念仏を広めるのは貴いことだ」と
声をかけてくださった夢。
【悲しかったこと】9歳のときにお父さんが亡くなったこと。
勝手な布教をする弟子がいたこと。



2年もの間、
世の人々が飢え渴いて、
ほんとうにひどかった。
春夏の日照りは強く、
秋は大風や洪水が起き、
良くないことが続いて、
大事な穀物がまったく
実らなかった
いまのわたしたちにも
共感したり理解できる
とこがあるかな

800年前の日本は…
大地震、大火事、大風、洪水、飢饉、疫病などで、
多くの人が家を失い、亡くなりました。
源平合戦で奈良の東大寺や興福寺が全焼するなど、
政治、宗教、人々の暮らしがとてつもなく混乱しました。
日本の宗教だった仏教にとっては、
お釈迦さまの教えがすたれて
誰も救われない時代(末法)だと
考えられていました。



すなおで落ち着いた
世の中になってほしいけれど、
今はそれを望めないのだから、
空を見上げては涙がこぼれ、
地面に伏しては
声をあげて泣いている。

みなさんは法然と親鸞という人の名前を聞いたことがありますか？
ふたりは今からおよそ800年前の日本で活躍したお坊さんです。
若い頃から勉強がよくできた仏教界のエリートでしたが、
安定した地位を捨てて、すべての苦しむ人が
平等に救われる道を求めました。
この展覧会では、ふたりにゆかりの仏像や絵画、
古文書をとおして、その人生や考え方を、
ともに生きた家族や周りの人たちについてご紹介します。



博物館でのルール

- ◎ゆっくり歩いて静かに見よう
 - ◎作品にインクがつかないように
メモはえんぴつで
 - ◎作品にはさわらず目で楽しもう
- 会期中、展示替がありますのでご注意ください。

やまおり

たにおり

やまおり

たにおり